

※この入門テキストも最終段階にさしかかっています。
譜例-31の低音伴奏付き「荒城の月」に、また新しい要素を追加しますので頑張って下さい。

●譜例-35で、メロディーをオクターブ下げた中間部4小節を練習しました。
今度はそのメロディーに伴奏音を加えてみましょう。

譜例-44

*さらに楽譜が込み入ってきました。音符や記号をよく読むようにしましょう。
また、伴奏の音をメロディーより少し弱く弾くことも注意して下さい。

14、休符について。

●譜例-41の最後の小節に見慣れない符号が出てきました。
↓のところにあるクリンとした符号で「8分休符」といいます。

譜例-45-a

五線譜には、音符の他に休符や発想記号（音楽に表情を付けるときのヒントになる作曲家のイメージ）、そしてギターの場合は、左右の手の記号などが書かれています。
他の楽器の人たちは「ギターの楽譜は読むのが難しい」と言いますが、読み馴れると大きな問題にはなりません。
たびたび書いたように「眺める」機会を多く持って下さい。

※音符が音を響いている時間を表すのと同じに、休符は「音を響かせない時間」を表す記号です。
厳密に言うと「音を止める」ことになるのですが、鳴っていた方が「いい感じ〜」な場合もあり、今の段階では音符と同じ「長さを表す記号」として、次の音符をひくまでの時間を感じるようにして下さい。

譜例-45-bに音符と同じ長さの休符を上下に並べておきます。

譜例-45-b

15、和音をひく。(その-3)

●譜例-43のa指だけで1弦をひくことが楽にできたら、譜例-46を練習して下さい。

譜例-46-a

*コツは、a, m, i の指先を軽くふれあうようにそろえて、じゃんけんの「グッ」と少し勢いをつけたような握り方で弦をはじくことです。(m, i 2音のときも同じ要領です。)